

ふくしまけん街道交流会 瓦版 第36号 25.10.1

だんだんと秋めいてまいりましたが、会員の皆様におかれましてはお変わりございませんでしょうか。さて、9月29日（日）に開催しました第12回ふくしまけん街道交流会 in 白河のご報告です。白河市での開催は2回目となるのですが、今回は「奥州街道と戊辰戦争・白河口の戦い」というテーマでの開催でした。まずはじめに、沼田典雄代表世話人から「歴史の一ページに残したくないようなことが起こったのも事実ですが、白河の近代歴史として学んでいきたい。」との挨拶があり、白河市長代理、鈴木進一郎副市長より「大和政権が白河の関を設けた。ここ白河藩は奥州の外様大名に睨みをきかせた重要な藩であった。白河口の戦いはじめ、歴史の狭間に必ず出てくる重要な場所だった。」と挨拶がございました。



沼田典雄代表世話人のご挨拶



鈴木進一郎白河副市長のご挨拶

続いて、白河市都市政策室長の佐川庄司氏による「奥州街道と戊辰戦争・白河口の戦い」というテーマでの講演です。



白河は、白河の関が設置されたように、古くから日本列島の要の地、奥州の関門として位置づけられ、政治的・軍事的に重要な役割を担っていました。東山道、奥大道の時代の遺跡も発掘されているが、今の街並みに残る街道になったのは上杉氏の時ではないかと思われる。



近世都市白河の誕生は約400年前で白河藩成立は約370年前である。白河藩主は丹羽家16年、榊原家6年、本多家32年、松平(奥平)家11年、松平(結城)家49年、松平(久松)家82年、阿部家43年と親藩や譜代大名が多かった。

講演会終了後、探訪会が行われました。



「境の明神」福島県側、文禄4年（1595年）に会津藩主の蒲生氏が社殿を造営したといわれている。現存するのは、弘化元年（1844年）に建てられた小祠で、奥州、越後の諸大名や多くの商人、旅人の往来が盛んで道中の安全を祈ったり、和算額を奉納したり灯籠や碑の寄進が盛んに行われていたようである。芭蕉や大江丸の句碑や歌碑等も建立されている。



※ 第3回会津五街道ウォーキングのお知らせ

平成25年10月19・20日（土・日）喜多方市で開催です（別紙参照）。当会で共催しております行事ですので是非ご参加ください。参加申込は「[会津五街道ウォーキング実行委員会](#)」（喜多方建設事務所企画調査課内）になっておりますので、別紙申込書に記入の上、直接お申込み願います。申込締切は10/15（火）になっております。